

作詞にあたって

吉 田 秀 三

新しい仙台の飛躍の年に生まれた西山中学校の前途をたたえ「未来をこだまに」をテーマとして作詞しました。第一連は生命の朝、友愛の心と希望を。第二連は夢と英知をもって理想をめざす。第三連はこの地に生まれた土の歴史をもとに創造の誇りを歌いました。全体として、かつての燕沢の地にちなんで、群れを飛ぶ燕が郷土に生きる姿を「つばさ」や「きずな」で象徴させてあります。またそれは若い西山中生の21世紀への飛躍でもあります。曾我道雄先生のすばらしい作曲によって、皆さんや地域の方々が明るく力強く、声高らかに愛唱して下さることを祈ります。校歌が皆さんの胸の中で大きく広がることを夢見ながら一。

作曲にあたって

曾 我 道 雄

吉田秀三先生が作詞された、未来をめざす若々しい西山中生への願いがこめられた素晴らしい詞のお陰で、作曲することができました。

作曲にあたっては、未来に生きる中学生らしく、すがやかなはつらつとした気持ち表現したいと、何度も練りなおしました。

曲の前半は「生命の朝」までで、自然な強弱の変化を生かして、明るく、生き生きと歌いたい。後半の「学び行く」からは、「友愛の心を開く」をめざして、次第に盛り上げて曲の山を作り、「希望確かに」で力強く締めくくるように表現したい。

西山中生の皆さんが、心ひとつに朗朗とした響きで、はつらつと歌われるよう願います。